

2014年10月25日（土曜）

## 大山（弥山：ミセン：1709m）

レポート by 熊本

写真 by 熊本、吉松、根岸、能勢、布目

初日（24日）は備前焼の陶芸で半日手作業だったが、二日目（25日）は一転して、脚力勝負の大山（ダイセン）登山である。大山とはどんな山？ 紀行文に入る前に大山ウンチク・・・

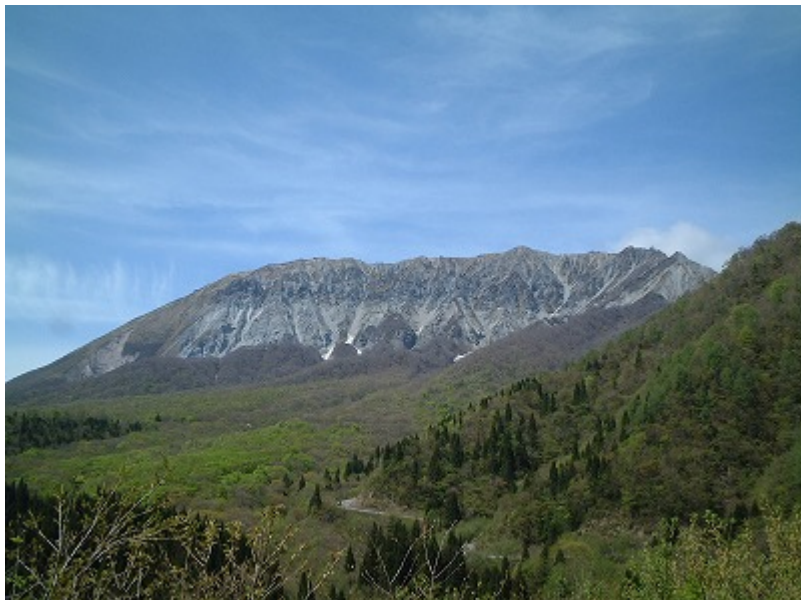
大山（ダイセン）は九州から加賀白山にかけての火山帯の上にある火山で、中国地方唯一の日本百名山である。標高最高点は1729mの剣ヶ峰であるが、崩落が激しく危険なため登山禁止になっており、現在の登山最高点は、弥山（ミセン：1709m）になっている。＊山陰地方では山をセン、峠をタワと呼ぶそうだ。



弥山・剣ヶ峰・天狗ヶ峰の東西に走る長い頂稜はカミソリの刃の様に鋭く、北壁、南壁に流れ落ちている。大山は見る方向によって、下写真のように、大きく山姿が異なっている。



西方（出雲方面）からは円錐形になり、富士山に似ているため、伯耆富士、出雲富士等の別名もある。



南方（蒜山、岡山方面）からは中腹以上は全く草木のない岩稜の長い峰が続き、実に男性的な山姿である。



北方（日本海側）からの景観は、写真の様に、一見、穂高の涸沢カールを彷彿とさせる景観であり、実際に下山時に見て涸れ沢カールと見まがうほどで、びっくりした。南壁に比し樹木は多い。

以上が鳥取「大山」に関する基礎知識で、いよいよ 25 日（土）の大山登山の本文に入る。

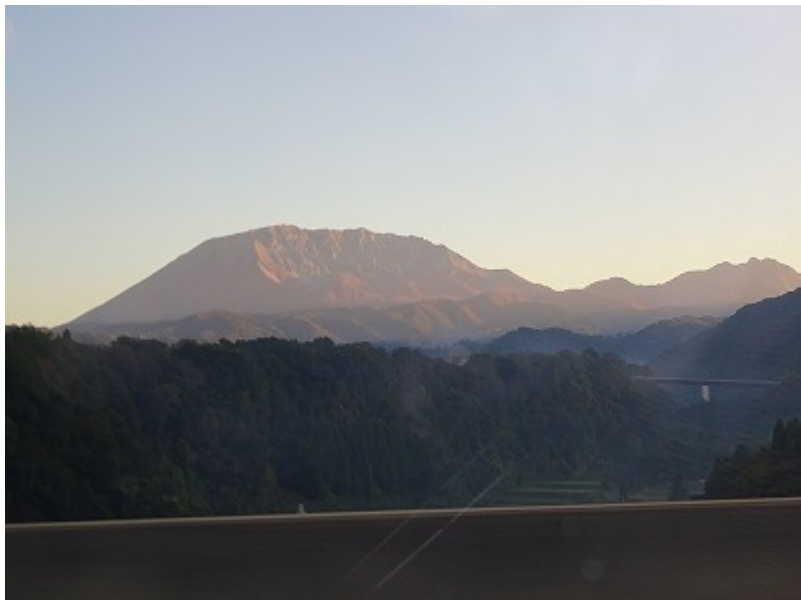
東京から 10 名で備前に乗り込んだが、大山登山は、今回リーダーの吉松さん、根岸さん、能勢さん、熊本の男性 4 名と川島さん、能勢夫人、岡部さん、布目さん、小山さんの女性 5 名の計 9 名パーティーである。



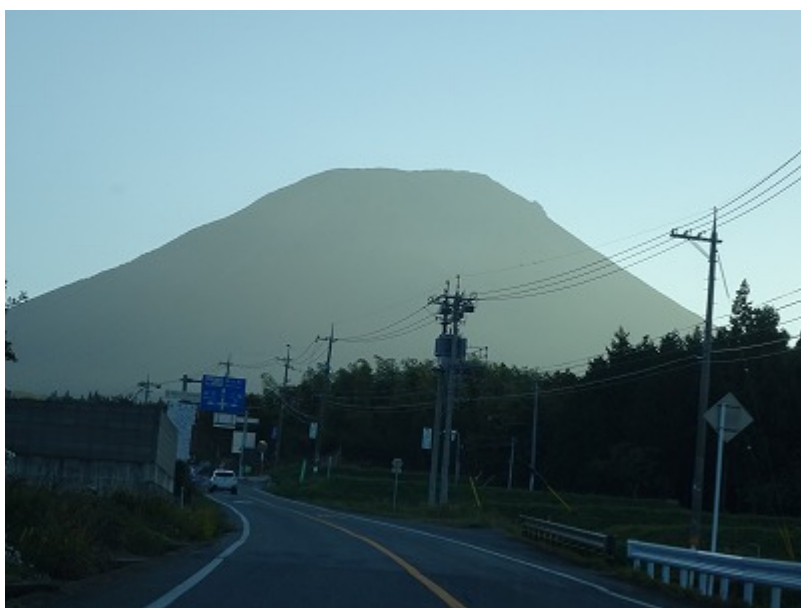
朝 4 時に外へ出て見た上空一面に満点の星空で今日も天気は良さそうだ。

長船ビジネスホテルの入口で出発時の写真を撮り、予定通り 5 時に 2 台のレンタカー（運転は吉松さん、根岸さん）に分乗し真っ暗な中を出発した。





長船から岡山市内に入り、岡山自動車道から中国自動車道、更に米子自動車道に入る。途中の山超えは一面に濃い霧が発生し、スピードを落とさざるを得なかった。日の出は6:25頃で、6:45 蒜山（ひるぜん）高原あたりまできてやっと霧が切れてきた。蒜山あたから大山が最初に見える。山頂から大きく抉り取られたような、噴火口のようにも見える。



蒜山から西に回り込み、溝口 IC で自動車道を出て一般道に入る。真西（出雲の方向）から大山を眺めるようになる。右手（東）からの太陽で逆光になるが、山姿は富士山とそっくりで、伯耆富士や出雲富士と呼ばれるのも納得である。この方向でしか富士山の形には見えない。（6:55）



予定より 30 分早く 7:00 にモンベル店近くの駐車場に着いたが、満杯で、第二駐車場へ移動。やっと 2 台の空きスペースがあり、運よく駐車できた。ここまで備前長船から約 2 時間で来た。駐車場で登山準備を終え、岡部さんの掛け声で、ストレッチ体操で体を解す。



登山準備を終了し駐車場で、大山を背景に、スタートの記念写真を撮る。

(7:30)

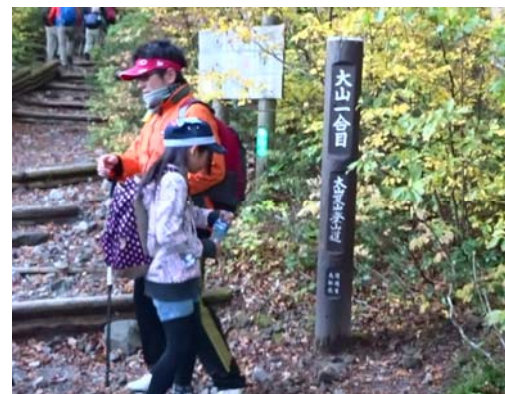


大山夏登山口から登山開始する。

コースは夏山登山口から登り、山頂（弥山：1709m）を目指す。

山頂まで標高差 900m あり、標準タイムでも 3 時間コースだ。

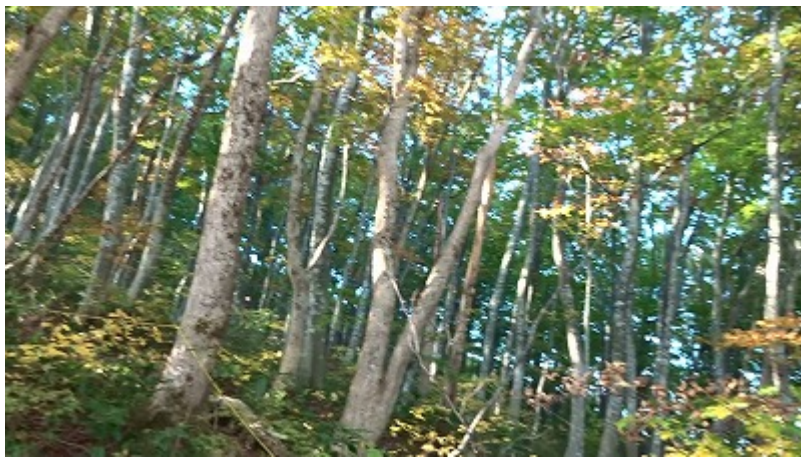
階段状の登りが暫く続く。



7:45 に一合目に到着する。

先頭は吉松さんがペースメイクする。後続者が、汗が出始め最後尾からペースダウン、ペースダウンを伝える。あくまでも全員登頂を目指す。





2合目を過ぎて暫く、相変わらずの階段状を登ると、標高 1000m の標識が出てきた。  
歩き始めて 30 分、この辺りはブナの原生林で黄葉が綺麗だ (8:00)。



ブナの原生林が黄葉で染まっており、  
相変わらずの階段状の登山道を登る。



8:20 三合目に到着し、5 分休憩を取る。  
風が無く暑い、既に T シャツ一枚になる。  
給水をしっかりとる(標高 1070m)。





出発して1時間15分で標高1200mに到達した(8:47)。

五合目はもうすぐだ。

相変わらず階段状の登りで、このコースは直登に近い。



五合目を過ぎると黄葉に紅葉が混じり始めた。

振り返れば日本海が真下に広がり、地平線が鮮やかだ。



六合目は石室の前にベンチがあり、

10分の大休憩を取る(9:20-30)。





快調に七合目まで来た(9:45)。  
登山口から2時間15分たった。  
能勢夫人が多少遅れギミだが、シッカリ、  
旦那がサポートしており問題ない。

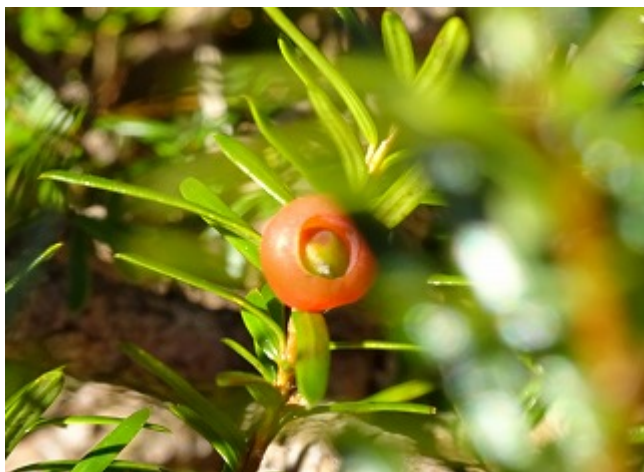


七合目からが一番の急登でガレ場の登りになり最後の踏ん張りどころ。  
9:55 に標高 1500m を通過。山頂まで標高差 200m となった。



八合目に来ると森林限界となり、周囲は特別天然記念物の「ダイセンキャラボク」が出始める。





ダイセンキャラボクの赤い実（甘い）。



自然乾燥した「ヤマハハコ」



最高点の剣ヶ峰が見える。山頂から崩壊している様子が良く分かる。  
登山禁止のナイフエッジ尾根を下っている人がいる。



八合目から木道になり、周囲一面はダイセンキャラボクの群生地になっている。







10:35 に九合目を通過。



10:45 山頂：弥山（1709m）に到着。登山開始から 3 時間 15 分かかったが、全員登頂を果たす事が出来た。雲一つない快晴に恵まれ最高の気分だ。  
しかし単独峰で風は強い。日本海と反対方向に目をやると、微かに見えた峰が四国の剣山と石鎚山の様だった。





弥山山頂から見た剣ヶ峰（1729m）の南面も深く切れ落ちている。



木道は登りと下りが周回になっていた。



下りは、登山客の混雑を避け、九合目の石室経由のコースを取る。





山頂に向かう登山客は数珠つなぎで下まで続いている。



九合目の石室を覗く。



途切れのない登山客をかき分け、一気に六合目の避難小屋まで下り、ここで昼食を取る。(12:00~15)





六合目から五合目に下る途中に行者登山道への分岐があり、混雑する夏山登山道と分かれ、右へのコースを取る(12:30)

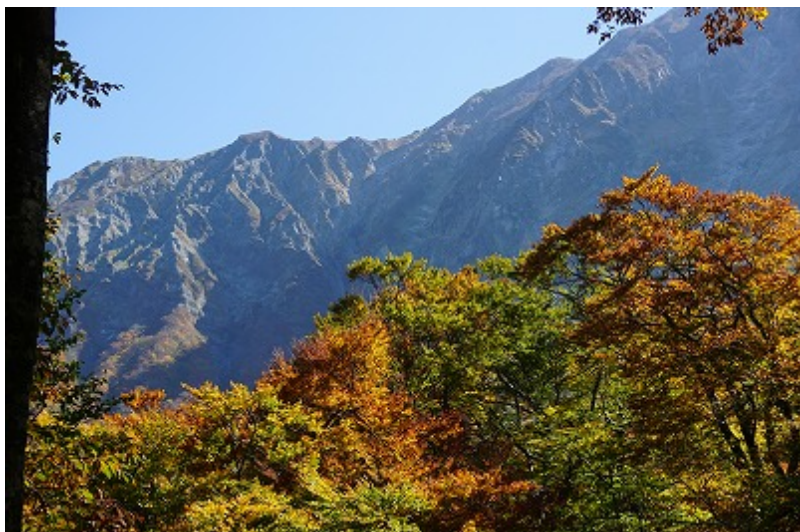


このコースは赤く色づいた紅葉が出始める。

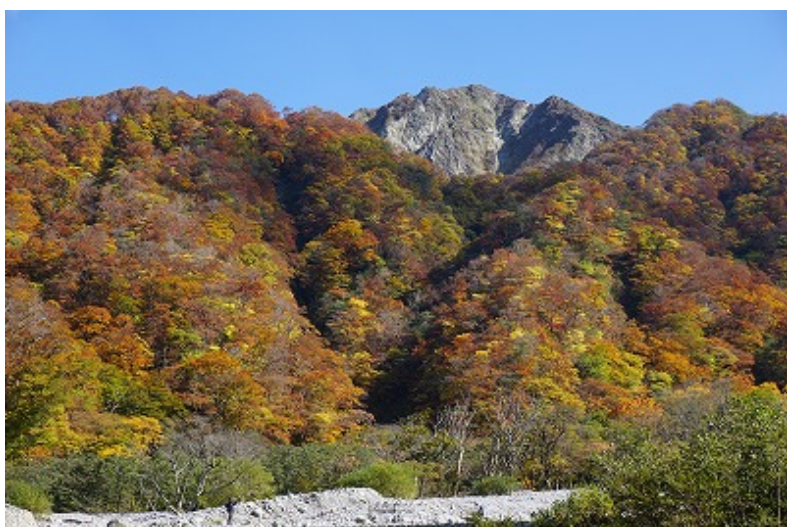


夏山登山道と異なり、登って来る登山客は殆どなく、快適なスピードで下山が出来る。





大山の剣ヶ峰から東側に連なる天狗の峰から三鈷山への尾根は健脚向けの「ユートピア」登山道だ。



紅葉の上に剣ヶ峰（1729m）の山頂が顔を覗かせる。



標高 1000m 弱で広い河原の大堰堤（えんてい）に出た。ここは大山の北壁観望の場所である。北壁は穂高の涸沢カールにソックリな景観だった。(13:10)





大堰堤からは傾斜の緩やかな下りとなり、ブナやダケカンバの樹林帯が正に、黄葉のピークを迎え実に美しかった。



30 分程下ると、最初に大神山神社があり更に下ると大山寺があった。

両者は出雲風土記に記載されており由緒あり、神仏混合で一つの社寺で大山権現（地藏権現）が、明治維新の廃仏毀釈で、奥宮だった大神山神社が切り離され存続し、大山寺が閉鎖されたが昭和に入り、天台宗別格本山として復興した。写真は大神山神社で無事下山を果たせたお礼参拝をして、境内で記念写真。

(13:45)





大山寺は登山口の近くにあり、標高約 900m の下山で足が棒になりガクガクになっていたが、折角だからと、石段を 300 段近く登り見学した。(14:10)

駐車場に戻り、登山靴を脱いでヤット開放感に浸り、本日の宿 鹿野温泉に向かう (14:40)



大山駐車場から北上し、琴浦から日本海沿岸を走る山陰道（無料）に入った。  
途中コンビニで飲み物等を調達し、  
鹿野温泉「国民宿舎 山紫苑」に 16 時に到着した。



登山組 9 名は温泉入浴で、大山登山の汗と疲れを取り、缶ビールで乾杯！  
今井夫妻、和子さんはまだ到着していなかった。





17 時頃、観光ツアーをしていた今井夫妻、  
和子さんが到着し、宴会に参加、  
12 名全員が揃い再び、乾杯！！



夕食は 18:30 から始まり、話が盛り上がり日本酒（300ml）を 12 本空けてしまいました。  
更に部屋に戻り、今度は焼酎を飲みながら宴会は続き、22 時 30 分に就寝しました。